

「国民公園・国立公園の ユニバーサルデザインプロジェクト」

平成27年5月20日

環境省



国民公園・国立公園の ユニバーサルデザインプロジェクトの背景

(ユニバーサルデザインの必要性)

- 昨年度、観光立国推進閣僚会議が決定した「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014」において、「**ユニバーサルツーリズム**」への対応について言及。
- 政府一丸となって観光立国実現に向けた取組みを進めており、**訪日外国人数は1,341万人**(H26年)となっている。
- 65歳以上の高齢者は**3,296万人**(H26.10.1時点)で、**高齢化率は26.0%**となり、国民の4人に1人が高齢者の時代。今後も増加の一途をたどることが予想されている。
- パラリンピックの開催を控え、**多くの障がい者の来訪が予想される**。障がい者数は**788万人**(H26年版障害者白書)で**国民の約6%**にあたる。



国民公園・国立公園の ユニバーサルデザインプロジェクトの背景

(国民公園・国立公園)

○環境省が管理運営する**国民公園(新宿御苑等)**は、都市のオアシスとして、**年間約1,400万人の利用者**がある。

○環境大臣が指定する**国立公園**は**全国に32公園**あり、我が国を代表する自然の景勝地として、**年間3.5億人の利用者**がある。

訪日外国人の関心も高く、地方における重要な観光資源ともなっている。



○国民公園・国立公園を、あらゆる人が快適に過ごせる場所として提供していくことが重要。

3



国民公園・国立公園の ユニバーサルデザインプロジェクトチーム

- 高橋大臣政務官の指揮の下
自然環境局長をトップに総務課、自然環境整備担当参事官室及び新設された国立公園利用推進室が協力して取り組む。

本部長: 塚本瑞天 自然環境局長

事務局長: 中尾文子 国立公園利用推進室長

- 5月13日にチームを発足

4



国民公園・国立公園の ユニバーサルデザインプロジェクトの目標

国民公園・国立公園において、高齢者、障がい者、ベビーカー利用者、外国人など、あらゆる人が快適に過ごすことのできるようなアイデア(ユニバーサルデザイン)をハード面、ソフト面、短期的取組、長期的取組等に分けてそれぞれ取りまとめ、今後の運営に生かす。

5

実施計画

(1) 高橋大臣政務官の環境省直轄施設の視察

視察先：新宿御苑

(2) 高橋大臣政務官と有識者との懇談・ヒアリング

有識者に新宿御苑の施設を視察いただき、その後、大臣政務官と懇談。ユニバーサルデザインについての助言をいただく。

【有識者】

やまざきやすひろ

山崎泰広氏 (株)アクセスインターナショナル 代表取締役社長

かわむらまさし

川村正司氏 (公社)日本オストミー協会 理事

かきうちとしや

垣内俊哉氏 (株)ミライロ 代表取締役社長

まつもりかりん

松森果林氏 ユニバーサルデザインアドバイザー

6

実施計画

(3) 先進的な取組の視察

WACCA IKEBUKURO(ワッカイケブクロ)

東京都豊島区東池袋1丁目8-1

(4) とりまとめ

①現状

- ・ヒアリングや視察の結果や助言のまとめ
- ・利用者からの意見等の集約

②ユニバーサルデザイン取組

ハード・ソフト両面について、

平成28年度概算要求で対応できるもの、長期的な対応が必要なものに分けて整理

7

スケジュール案

5月～6月

- ・キックオフについて高橋大臣政務官記者会見
- ・直轄施設の視察、懇談・ヒアリングの実施
- ・先進的な取組の視察
- ・所管施設に対して利用者から寄せられている意見等の集約(環境省と管理スタッフで把握している情報)

7月中 取りまとめを高橋大臣政務官より発表

8



国民公園・国立公園のユニバーサルデザインプロジェクト 成果のイメージ(例)

ハード面

現状

- 一般トイレブースの設備不足
(和式便器、手すりなし、ベビーチェアなし等)
- 園路等の段差による通行上の支障
(細かな段差、車イス・高齢者が
歩きにくい舗装等)



【一般ブース(設備不足)】 【歩きにくい舗装】

有識者を交えた現地視察、アドバイスをうけて
現施設の改善を検討



ユニバーサルデザインのイメージ

- 多目的トイレ、一般トイレブースの改善
(利用集中の改善、スペースの見直し等)
- 園路等の段差の解消
(細かな段差の解消、車イス・高齢者でも通行
しやすい舗装)



【一般ブース内の改善】

【細かな段差の解消】



国民公園・国立公園のユニバーサルデザインプロジェクト 成果のイメージ(例)

ソフト面

現状

- 訪日外国人の多くがアクセスする「JapanGuide」との連携により、国立公園特設サイトを開設するなど、外国人向けの情報発信は進めている。



- 障がい者、高齢者、ベビーカー利用者などへの対応は、これからさらなる検討が必要。

有識者の現地視察、アドバイスをうけて
ユニバーサルデザイン化を検討



ユニバーサルデザインのイメージ

- ビジターセンター等職員の接遇向上
- ホームページやパンフレット等のユニバーサル化
- 障がい者や高齢者の方向への国立公園へのアクセス情報の提供
- 障がい者の方向への自然体験プログラム



【ビジターセンター等職員対象の研修】



【障がい者向けのプログラム】